

## 大和漁業協同組合 様

目的

海苔漁場管理

業種

農林水産

エリア

九州・沖縄

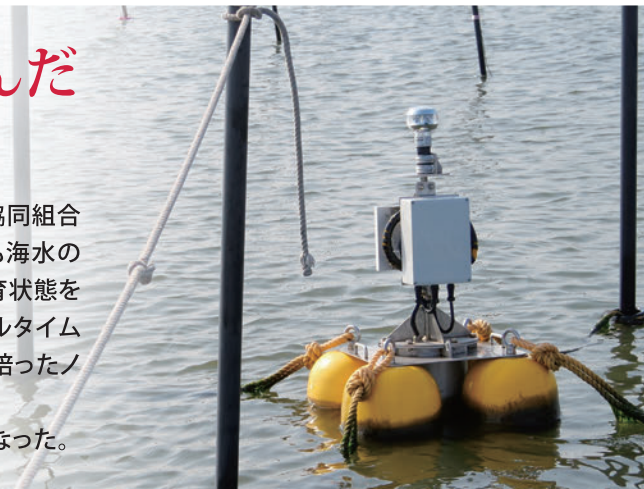
従業員数

301名~1,000名

海苔師とICTがタッグを組んだ  
「ICTブイ」

有明海で海苔を養殖する海苔師が大勢加盟している大和漁業協同組合は、スマートフォンのアイコンをタップするだけで、どこにいても海水の状態が把握できる「ICTブイ」を導入。海水の状態から海苔の生育状態を推し量り、適切な作業を施す海苔師にとって、「ICTブイ」がリアルタイムで送信してくる海水の温度や比重（塩分濃度）は長年の経験で培ったノウハウを活かすための重要な判断材料になっている。

海水の状態を知るため、1日に何回も船を出すという負担もなくなった。



## 導入サービス

## ICTブイ

## 導入前の課題

BEFORE

- 1 海水の状態を調べるために1日何回も船を出していた。燃料費もかかるし、手間もかかるので大きな負担になっていた。
- 2 海水の温度や比重（塩分濃度）の変化はノートに記録していたが、データ化されていないために、記録情報を活用できずにいた。
- 3 海水の状態が正確に把握できていなかったため海苔養殖の作業を手探りで行っていた。確信を持った的確な作業にできなかった。

## 導入後の成果

AFTER

- 1 「ICTブイ」が30分ごとに海水の温度と比重（塩分濃度）を計測して、スマートフォンに送信。船を出さなくても海水の状態が把握できる。
- 2 過去のデータが記録として残り、グラフ表示ができるので、海水の変化が具体的にわかる。これまで気づけなかった海の変化が解明された。
- 3 データを活用し、海苔養殖に適した場所を見つけ的確な作業をしている。また海苔師のノウハウをデータと結び付け、後継者育成に役立てている。

## お客様の声

## 導入のきっかけ

海水の状態を調べるために一日何度も船を出していた  
燃料費もかかるし、手間もかかるので大きな負担だった

おいしい海苔をたくさん収穫するためには、海苔がまだ小さな芽の時から細胞レベルの生育状態に合わせ、適切な手入れをする必要があります。海苔師は一日に何度も船を出し、海水の温度や比重（塩分濃度）の変化を調べ、長い経験で培ったノウハウと勘で海苔の状態を推測し、適切な手入れをしていました。船の燃料費もかかりますし、手間もかかるので大きな負担になっていました。

海水の温度や比重（塩分濃度）の変化はかさずノートに記録していましたが、データ化できないために、その記録を活かすことが

できていませんでした。データ化することで、海水の状態と海苔養殖の作業が結び付けば、これまで「こうだろう」と勘に頼っていたことが「こうしよう」に変わります。海苔養殖を受継いでくれる後継者の育成のためにも、海水の状態のデータ化が必要だと考えていました。

## Profile

所在地は福岡県柳川市。漁師340名が加入。そのうちの300名が海苔養殖に従事。生産した海苔は「福岡有明のり」として全国の高級海苔店やコンビニエンスチェーンなどに出荷。風味豊かで旨味があり、やわらかく歯切れがよいと評判。



大和漁業協同組合  
代表理事 組合長  
西田晴征氏



大和漁業協同組合  
総代理  
田中智幸氏



大和漁業協同組合  
大和研究会会長  
西田剛氏



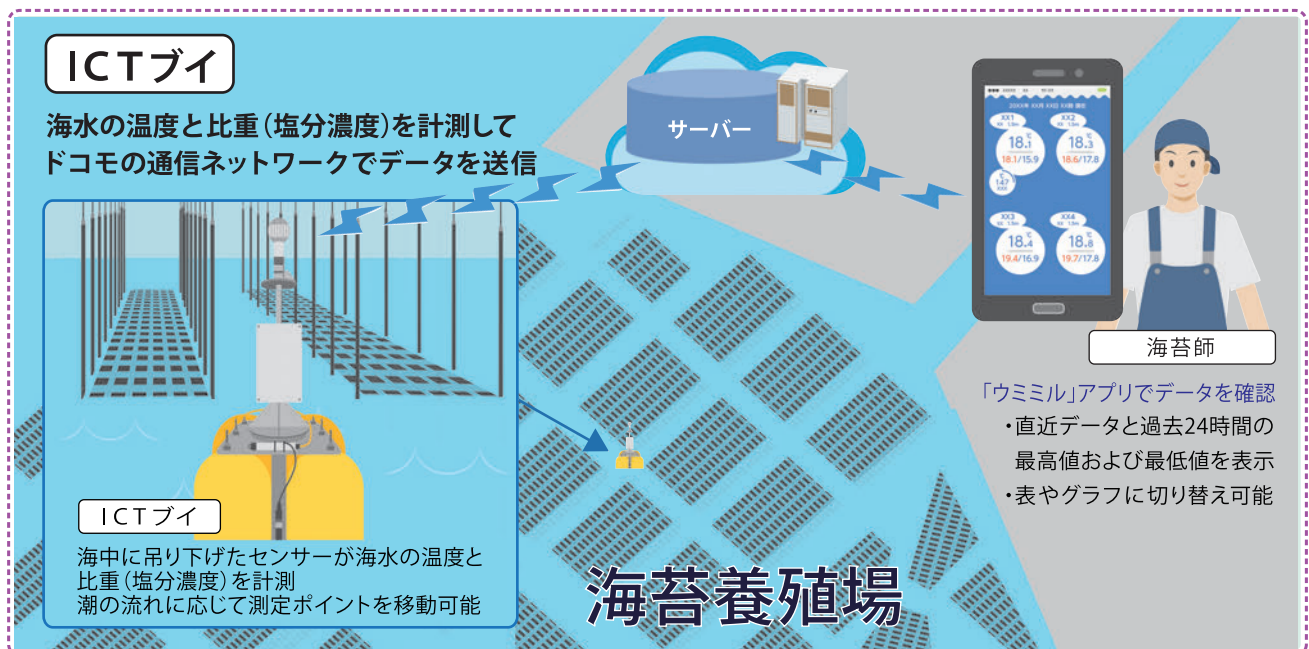
## 「ICTブイ」のデータが海水の変化を見える化 海苔の品質と収量の底上げにつながっている

「ICTブイ」は、ブイに付いているセンサーが30分ごとに海水の温度と比重（塩分濃度）を計測してくれて、そのデータをスマートフォンに送信してくれます。それに、過去のデータが記録として残り、グラフ表示ができますので、海水の状態がどのように変化しているのか具体的にわかります。その機能のおかげで、満潮時には比重（塩分濃度）があがるのが普通なのに、時間帯によっては下がる場所があることに気づき、対処ができました。「ICTブイ」で海水の変化が見える化され、これまでよりも海苔養殖のノウハウを的確に活かすことができるようになりました。海苔の品質と収量の底上げにつながっています。

また、若手の海苔師が開いている研究会では「ICTブイ」のデータを今後どのように活用していくかを話し合っています。海苔師が持っているノウハウと「ICTブイ」のデータをうまくまとめられたら後継者の育成にも役立つと思います。



### 導入システムの概略図



### 営業担当者からのメッセージ



株式会社NTTドコモ九州支社 法人営業部 ICTビジネスデザイン担当部長 **直塚 浩二** (左)  
株式会社NTTドコモ九州支社 法人営業部 ICTビジネスデザイン担当主査 **中嶋 雅子** (右)

「ICTブイ」の導入をきっかけに水産業に従事する人たちの生活やそれを取巻く多くの人たちの存在を知りました。過酷な漁場で働く漁師とその漁師を支える漁協との連絡には書面やFAXを使うケースが多く、ICTの活用により解決されるであろう課題もありました。「ICTブイ」の導入に終わらず、残った課題の解決をお手伝いするとともに、漁師・漁協・ドコモがチームとなり「福岡有明のり日本一!」をめざします。



**bizどこ** タブレット向け電子コンテンツアプリ



「Bizdoko」は、あなたの仕事をもっとスマートになるビジネス情報を発信するアプリです。動画など、アプリならではの機能を活かした多彩なビジュアル表現でお届けします。

ドコモのホームページ 法人のお客さま

<https://www.nttdocomo.co.jp/biz/>